

調査報告

越冬期2023・① 調査結果の概要とお礼

2年目の越冬期調査は、昨年実施した79か所（※）に加えて、コロナ禍で実施できなかった4か所と新規の1か所を加え、84か所で実施しました。調査に携われた方々、ご協力・ご援助いただきました皆様に感謝いたします。

【調査地】 前回の79か所+荒川区・汐入公園 江東区・清澄庭園 中央区・浜離宮庭園 武蔵野市・小金井公園 新規：調布市・神代植物公園=84か所
※79か所の調査地点は本誌No.798（2022年6/7月号）の本ページをご覧ください。

【越冬期2023・記録された鳥リスト・日本鳥類目録改訂第7版に準拠】

キジ、コハクチョウ（亜種アメリカコハクチョウを含む）、ツクシガモ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ビロードキンクロ、ヒメハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クロツラヘラサギ、クイナ、ヒクイナ、バン、オオバン、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、セイタカシギ、ソリハシセイタカシギ、タシギ、アカアシシギ、クサシギ、イソシギ、オジロトウネン、ハマシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、コミミズク、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、モズ、カケス、オナガ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、セッカ、ムクドリ、トラツグミ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、カヤクグリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、クロジ、オオジュリン、コジュケイ、コブハクチョウ、カワラバト（ドバト）、ホンセイインコ、ガビチョウ、カオグロガビチョウ、アヒル・カモ雑種〔仮集計：110種〕〔太字は、昨年は記録されなかった鳥〕



国立市多摩川で泳ぐ
アメリカコハクチョウ(右)
中島徹也氏撮影

【調査者・協力者・協力団体】

青木秀武、荒井悦子、伊藤周、今関一夫、内田真人、遠藤源太、大石征夫、大澤邦男、大塚恵子、大塚豊、長名優子、小川 潔、鹿島彬世、鹿島克己、粕谷和夫、金子凱彦、川崎道雄、川沢祥三、川内桂子、川内博、河野恒久、軽部三男、北沢三紀子、久保賢一、倉持内武、小林和子、小林恒勝、小林博美、齊田貞子、佐伯彰光、坂本宗吏朗、佐々木輝彦、鈴木弘行、鈴木遼太郎、瀬藤光子、高橋新一、高橋嘉明、田久保晴孝、武田和夫、田島基之、田中幸子、田中睦也、田中利彦、寺本徹、土橋信夫、鳥居明久、中島徹也、中村純子、中村文夫、名執修二、新橋拓也、西村眞一、橋本和司、羽村俊夫、古沢紀、前迫大也、増永望美、松尾義明、松原暢子、松原秀治、松村茂生、宮越俊一、三間久豊、門司和夫、横尾健司、吉邨隆資、渡辺貞子、渡邊宏之、日本野鳥の会奥多摩支部、認定NPO法人生態工房、小金井自然観察会、しのばず自然観察会、八王子・日野カワセミ会、東久留米自然友の会、府中野鳥クラブ

〔50音順・敬称略〕

2022年12月度月例探鳥会

No.		三 番 瀬	多 摩 川	東 京 港	多 磨 壺 園	新 浜	清 澄 庭 園	谷 津 干 潟	明 治 神 宮	高 尾 山	葛 西 臨 海
383	カワセミ		2	1		5	1	2			1
390	コゲラ			3	3				5	5	5
401	チョウゲンボウ		1			1		1			1
407	ハヤブサ										1
420	モズ	1	4	2		2				1	1
429	オナガ	3					30				
435	ハシボソガラス	2	20	1	20	5	1	5			8
436	ハシブトガラス	2	10	10	10	28	10	50	30	8	15
438	キクイタダキ								20		
442	ヤマガラ				1					10	
443	ヒガラ									2	
445	シジュウカラ		2	12	10	25		5	20	10	20
452	ヒバリ		5								
463	ヒヨドリ	10	10	30	50	130	50	50	50	25	55
464	ウグイス	2	1	4	2	6		2	5	2	15
466	エナガ			6				10	10	30	
485	メジロ			20	25	60		10	50	40	30
499	セッカ		1			1					
504	ミソサザイ									1	
506	ムクドリ	30				15	50	10			
521	シロハラ								7		
522	アカハラ								1		
525	ツグミ				3				2		
	・大型ツグミ sp.					2					1
536	ルリビタキ								1	4	
540	ジョウビタキ	1	2	1		3		1		1	2
549	イソヒヨドリ	1	1			2					1
569	スズメ	20	80	5		60	5	50	10		100
573	キセキレイ		1						1	1	
574	ハクセキレイ	5	10		1	23	2	1	2	2	15
575	セグロセキレイ		8								1
584	タヒバリ	5	10			1					
587	カワラヒワ	5	15	7	3	25	2		5	1	5
599	ウソ								1		
600	シメ				2			1			
610	ホオジロ		4			2				1	
624	アオジ			1		7			3	1	10
628	オオジュリン	2				8		5			
	観 察 種 数	40	35	34	16	52	21	37	27	21	54
	参加者 (名)	11	42	17	25	17	13	19	25	37	34
	担当者 (名)	10	7	4	3	5	3	3	6	6	7
A	コジュケイ									1	
B	カワラバト (ドバト)	30	60	5		70	50		30		80
D	ホンセイインコ				1				1		
E	ガビチョウ		1							2	

- ① No. は日本産鳥類リスト (日本鳥類目録改訂第7版 - 2012年) による
 - ② 風: 強、弱、無の三分区 ③ No. 欧文大文字は外来種
 - ④ sp. は種を意味する英語 species の略。(例: 新浜の「大型ツグミ sp.」は「ツグミ類の仲間の1種」を表します。)
- 2015年1月度月例探鳥会より日本鳥類目録改訂第7版の種類順の掲載です。

●清澄庭園

今日は寒かった。池のカモは11月の100羽から140羽に増えた。でも未だ少ない。今日のお客さんは開会時に上空を飛んだオオタカと池に来たオオバン・マガモ♀各1。オオタカは時々やって来るがオオバン・マガモは久しぶり。カラスが地面に落とした楠木の落果をカルガモ数羽が懸命に拾い食い。隣りの清澄公園でも楠木の実をオナガが群れでせっせと食べていた。

(渡辺 進)

●谷津干潟

潮が満ちつつある時間帯にあたり、シギチドリは残念ながら集合前に飛び去ってしまったらしい。水面西寄りには多数のカモ類とオオバンが目立つ。群れで飛び回っていたのは猛禽類によるものか。近年カモメ類が少ない傾向が気になるが、当日はユリカモメよりズグロカモメの数が多いという参加者にとっては幸運な日となった。(遠藤源太)

●明治神宮

北池では先月に続きカモ類をじっくり観察でき、特にカイツブリが大きなアメリカザリガニを食べる様子は迫力があつた。ツグミなど冬の小鳥はほとんど見られなかったが、ハイタカの羽毛が沢山落ちており、期待していると背後から飛び、終了直後にもオオタカが観察できた。ハイタカはヒメアマツバメと同時に飛ぶ場面もあり空はにぎやかだった。

(水村春香)

●高尾山

山麓でモズ、ハクセキレイ、ヤマガラが見られ、登山道ではルリビタキ、ミソサザイ、カラ類の混群等を観察しました。解散直後にノスリが出現。全体的に鳥は少なく静かな冬の高尾山でした。

(中村直子)

●葛西臨海公園

強風の予報でしたが、樹木に囲まれた公園内では暖かく、メジロやシジュウカラなど普通種の鳥たちをじっくりと観察できました。さすがに海辺は風が強かったですが、ミヤコドリやクロツラヘラサギ、カムリカイツブリなど多くの水鳥が観察できました。鳥類園ではカワセミとノスリを近くで見ることが出来ました。

(鈴木弘行)

<1月の担当記>

●三番瀬

大潮ですが潮高く(11:48で104cm)、ハマシギ、ミユビシギ、ミヤコドリ、シロチドリ等がエサを探る行動を近くで観察。珍しいハジロコチドリにカメラマン多数。シギ・チドリ類を初めて観察する方が多く、皆さん感激。東側の防泥柵で休息するカモメ類にアジサシとシロカモメがいた。12月からピロードキンクロが観察できない。45種(年間最高種数?)の野鳥が観察できた。
(田久保晴孝)

●多摩川

開始地点はコガモやオオバンの群れで大賑わい。昨年12月から観察されているヒメハジロ雄は100mほど上流で繰り返し潜水していたがかなり遠い。同じ場所にホオジロガモも。上空通過のミサゴ、旋回するチョウゲンボウ、草地のホオジロ、枯草にとまるモズを観察。カワセミは本流、大栗川で観察。
(深井友章)

●東京港

新年最初の探鳥会でお子さん連れも含め多数の人が参加してくれたが、カモの数が減り、小鳥も少なめで静かな感じ。しかしその分オオタカやノスリが活発に出現。何度も飛んでは木に止まったが、見やすい場所に止まることも、非常に見にくい場所に止まることもあり、参加者はそれを自分の目で確認することで盛り上がりしてくれた。
(増田浩司)

●多磨霊園

真冬の霊園内はたくさんヒヨドリの声や、ちょっと似ているインコの声が混じって賑やか。シメ、カワラヒワ、ヤマガラなどの小鳥が初心者グループにもしっかり姿を見せてくれた。ツグミはこの日も声のみの確認。久しぶりに足を延ばした浅間山ではシジュウカラが活発に動き、シロハラ、コジュケイは解散後に出たようだ。(川沢祥三)

●新浜

保護区内のみ探鳥。猛禽類は5種が出現。高空を旋回する豆粒のようなハイタカと悠々と舞うトビでは体格差が歴然。海面上では雌雄で見事に色分けされたウミアイサ等を観察。保護区内としては珍しくミミカイツブリも現れた。出口に向かおうとした所、なんとアオバトが出現して驚かされた。トウネズミモチの実を食べていたようだ。
(本間幸治)

2023年1月度月例探鳥会

日	8	8	8	8	21	18	20	22		
天候	快晴	快晴	晴	晴	快晴	快晴	曇	晴		
風	無	弱	弱	弱	弱	強	無	強		
	三番瀬	多摩川	東京港	多磨霊園	新浜	清澄庭園	谷津干潟	明治神宮	高尾山	葛西臨海
26	オカヨシガモ					12			2	
28	ヒドリガモ	30	3			4			40	
29	アメリカヒドリ(の雑種)					11				
30	マガモ			8	22	1	2	20	3	
32	カルガモ	5	9	5	1	30	4		70	
34	ハシビロガモ		10			2	1		2	
35	オナガガモ	50			5	200			2	
38	コガモ		300		3	15			130	
42	ホシハジロ	3		10		2	1		6	
46	キンクロハジロ			4	20	80	1	1		
47	スズガモ	4000		4	6		110		4000	
56	ヒメハジロ		1							
57	ホオジロガモ	30	1			1				
60	ウミアイサ	20			12				10	
62	カイツブリ		8	7	2	3			3	
64	カンムリカイツブリ	30			10	2			5000	
65	ミミカイツブリ				1					
66	ハジロカイツブリ	50							300	
74	キジバト	1	2	2	8	7	10	6	10	
78	アオバト				1					
127	カワウ	4000	50	6	3	4000	5		500	
139	ゴイサギ						2			
144	アオサギ	2	15	3		8	7		10	
146	ダイサギ	1	70	1	2		3		5	
148	コサギ		1				4		4	
154	クロツラヘラサギ								3	
166	クイナ								1	
170	ヒクイナ				1				1	
175	オオバン	40	120	20	3		250		30	
193	ヒメアマツバメ			6						
199	ダイゼン	40								
200	ハジロコチドリ	1								
202	イカルチドリ		5							
204	シロチドリ	50							15	
209	ミヤコドリ	357								
244	イソシギ	1			1		1		3	
249	ミユビシギ	60								
261	ハマシギ	1000							50	
286	ユリカモメ	100					9		1	
287	ズグロカモメ	2			2					
293	ウミネコ	20							1	
294	カモメ	1								
296	シロカモメ	1								
299	セグロカモメ	300	1						20	
301	オオセグロカモメ	1							4	
314	アジサシ	1								
339	ミサゴ	1	2		1				3	
342	トビ	1	5	2	2	1			3	
349	チュウヒ				1					
355	ハイタカ				1	2		2	2	

1月の高尾山は開催しませんでした

2023年1月度月例探鳥会

No.		三 番 瀬	多 摩 川	東 京 港	多 磨 壺 園	新 浜	清 澄 庭 園	谷 津 干 潟	明 治 神 宮	高 尾 山	葛 西 臨 海
	ハイタカ sp.					4					
356	オオタカ			1				1	2		1
358	ノスリ		1	2		1			1		1
383	カワセミ		3			1	1		1		
390	コゲラ			5	7	2		1	2		3
397	アオゲラ				1						
401	チョウゲンボウ		1								
412	サンショウウイ								1		
420	モズ		3	3	1					1月の高尾山は開催しませんでした	3
429	オナガ					20		5			
435	ハシボソガラス	2	50	1	15	15		3			10
436	ハシブトガラス	1	5	15	10	40	10	10	50		15
442	ヤマガラ				8				5		
445	シジュウカラ	4	2	10	40	3	6	10	5		15
463	ヒヨドリ	20	5	30	50	80	50	30	50		90
464	ウグイス	2		1	5	8		1	1		5
466	エナガ				20	3		5	20		1
485	メジロ	10		14	30	10	5	20	30		100
499	セッカ		2								
506	ムクドリ	10	2			2		50			30
521	シロハラ					2			2		5
522	アカハラ										3
525	ツグミ		2	8	2	20	5	2	30		20
540	ジョウビタキ		3	1	3	1					2
549	イソヒヨドリ	1									1
569	スズメ	50	20			20		5	20		160
573	キセキレイ		2								
574	ハクセキレイ	4	30		2	8		1	4		10
575	セグロセキレイ		8								3
580	ビンズイ										5
584	タヒバリ	10	15			4					
587	カワラヒワ	8	40		10	20			5		10
600	シメ				5				1		
610	ホオジロ	2	6			4					
624	アオジ		1	2	2	20			2		15
628	オオジュリン	30				30		2			
	観 察 種 数	45	37	26	20	46	14	37	25		55
	参加者(名)	10	39	33	35	14	21	5	21		42
	担当者(名)	2	6	3	4	5	3	2	5		8
B	カワラバト(ドバト)	40	40	2	1	5	40	15	10		100
D	ホンセイインコ				10						

① No. は日本産鳥類リスト(日本鳥類目録改訂第7版・2012年)による

② 風: 強、弱、無の三区分 ③ No. 欧文大文字は外来種

④ sp. は種を意味する英語 species の略。(例: 新浜の「ハイタカ sp.」は「ハイタカ類の仲間の1種」を表します。)

2015年1月度月例探鳥会より日本鳥類目録改訂第7版の種類順の掲載です。

●清澄庭園

風が強いけれども快晴で好天気。池のキンクロハジロ、ホシハジロ、カルガモの数が増えた。多くは去年生まれの若鳥だろう。何処から来たのか珍しいアメリカヒドリが1羽(雑種)。清澄庭園での観察記憶が私にはない。ツグミを今冬初見。以前は冬季には普通に見られたが近年は時々しか。数が減ったのか? 清澄の環境の所為か?

(渡辺 進)

●谷津干潟

担当記: 三角干潟にオナガガモが大挙して飛来したのはオオタカが出現したためらしい。そのオオタカも やってきて木の茂みに飛び込んだが、カモ類は慌てた様子が見られなかったのは不思議。スズガモが潜って取ってきたアオサをオナガガモが貰って食べていた。初めて見る光景だった。谷津干潟側では カモ類初めて少なくともオオバンばかりが目立っていた。(杉本秀樹)

●明治神宮

北風が吹く中、宝物殿前ではツグミの群れが見られ真冬を実感した。北池ではカワセミや、珍しくハシビロガモもいて、皆でじっくり観察できて良かった。オオタカも比較的近くを旋回し、見ごたえがあった。今回はメーカーから双眼鏡の貸し出しが行われ、多くの参加者に体験していただけた。

(糸嶺篤人)

●1月の高尾山は開催しませんでした

●葛西臨海公園

冬本番の寒い日でしたが、風がなかったので臨海公園内ではゆったりと鳥を観察できました。メジロとヒヨドリはとても多く、園内のいたるところで見られました。海鳥は少な目で、カモメ類は数えるほど、それでもカムリカイツブリは5千羽と増加していました。後半は鳥類園を廻り小鳥類の混群やノスリが観察できました。

(鈴木弘行)



★こちらの探鳥会で観察した野鳥はインターネット上の「eBird」に掲載。右のQRコードから閲覧ください。「eBird」は22年6・7月号19Pの「フィールドノートのススメ」、同6・7月号20・21Pと8・9月号22・23Pの「eBirdを使ってみよう」をご覧ください。



12月



1月

●12月4日 彩湖道満Young

<担当記> 晴天に恵まれ風も弱く期待をした反面、猛禽類の出現は少なかった。

ベニマシコは声は頻繁にするも姿は見れなかったが、解散後の有志探鳥(半数以上参加)で姿を見ることができた。

探鳥会終盤で、20羽程度のオナガの群れに遭遇。ゆっくりと姿を観察ができた。関西出身の参加者は特に喜ばれていた。(新橋拓也)

●12月10日 葛西臨海公園早朝

<担当記> 紅葉が美しい公園を3コースに分かれて出発。コースによってはメジロがカラスザンショウの実を食べる姿やジャッジャッと茂みで地鳴きするウグイスが見られました。

海側はスズガモ、カンムリカイツブリの群れ、空には数羽のトビに混ざってハイタカ。澄んだ空気の中で気持ちの良い探鳥会でした。(原 有紀子)

●12月16日 小石川植物園

<担当記> すっかり冷え込んで冬らしい風景になった小石川植物園観察会。最初から遠くの鉄塔の上にチョウゲンボウがずっと止まっていて、しっかりと姿を見せてくれました。

ヒヨドリの声がにぎやか。日本庭園に日本庭園のところでちらりとルリビタキの雌。ジョウビタキの綺麗なオスが長い事姿を見せてくれました。アオジ、ウグイス、カラ類の声が冬らしい日本庭園の姿に華を添えてくれていました。(井守美穂)

●1月3日 多摩川丸子橋上流

<担当記> 天気の良い正月。丸子橋付近ではヒドリガモとコガモの混群中の1羽のアメリカヒドリをみんなで探しました。ツグミは多摩川台公園でやっと1羽が出現し、昼食時には公園の上空を珍しくミサゴが飛翔。

オオタカは空を飛んだりケツケツの音が聞こえたり、さらに解散前の鳥合せ中には逃げるドバトをきわどく襲うシーンが迫力満点でした。

(川沢祥三)

●1月14日 葛西臨海公園早朝

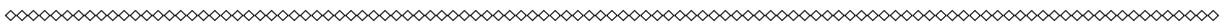
<担当記> 雲が多く薄暗いせいか鳥たちも寝坊したようで、園内に人が増えてきたタイミングで動き出した感じだった。今季ほとんど見なかったツグミ類が観察できたのは嬉しい。小鳥は活発だったが海域のカモ類は少ない。

クロツラヘラサギは2羽いた。鳥類園は観察センターの工事(2024年2月末終了予定)が始まり、上池には鳥が少なかった。(東 有子)

●1月24日 平日・六郷干潟

<担当記> 朝からの小雨模様から曇のち晴となり暖かさを感じる様になりました。中州では浚渫工事の音もありましたが、河原ではオオジュリンの食事風景が間近に見られました。最近見る事が少なくなったユリカモメも大きな群れで見られました。

帰り道に珍しいウミアイサと首都高速大師橋の壮大な架け換え工事も見えました。(軽部三男)



編集便り

- ・皆さんへの会報「ユリカモメ」が隔月刊となって1年です。だからという訳ではありませんが、表紙の構成を変えました。これは内容をより分かりやすく説明するためです。
- ・新連載「Tokyo野鳥ガイド」は「今月の鳥」を「探鳥会での鳥ガイド」としてみたら、という方向性でリニューアルしたものです。月例探鳥会10カ所で実際に観察された鳥種を基本に、要注目の種も含めてご紹介していきます。
- ・新連載「野鳥探偵は行く <鳥のフィールドサイン探し歩き>」鳥の残した「何か」を探求するページ。残された何かによって、より深く多面的な「鳥の様々な楽しみ」を探るのです。(ロプロブ)

◎1月度幹事会 1月10日

ZOOMによるリモート会議

I. 報告事項

- ①1月の感染拡大防止対応
- ②1月度の「申込制および条件付開催探鳥会」の開催について
- ③担当者の交通費支給方法の変更に伴う対応
- ④新探鳥会リーダー諾否結果
- ⑤講師派遣広告
- ⑥2023野鳥カレンダー販売結果
- ⑦富士フィルム東京港撮影会
- ⑧葛西ラムサール関連
- ⑨行事報告 ⑩会合報告
- ⑪事務局会議報告

II. 審議事項

- ①前回議事録 …一部修正の上で承認
- ②2023年からの副代表および会計監査 …承認
- ③次期編集委員6名 …承認
- ④行事予定の審議を開催3カ月前へ変更 …承認

後送

ユリカモメ会員のみなさんへ

よろしければ(公財)日本野鳥の会にもご入会ください。入会することがタンチョウやシマフクロウなどの保護につながります。

年会費

赤い鳥会員=当会会費3,500円+1,000円
おおぞら会員=当会会費3,500円+5,000円
詳細は当会事務局へお問い合わせください。

当会へのお問い合わせについて

月・水・金の正午～午後4時となります。
お電話などご注意下さい。

日本野鳥の会東京
Instagramのアカウント



ユリカモメ … 創刊 1954年

2023年4・5月号(通巻803号) 2023年3月20日発行

発行所 日本野鳥の会東京

(〒160-0022)東京都新宿区新宿5-18-16

新宿伊藤ビル3階

(Tel) 03-5273-5141 (Fax) 03-5273-5142

E-mail: office@yacho-tokyo.org

https://wbsjt.jimdo.com

(研究部) http://www.yacho-tokyo.org/birdstudy/

発行人 大塚 豊

印刷所 ベクトル

年会費 3,500円

郵便振替口座 日本野鳥の会東京 00180-7-152717

本誌記載記事の無断転載禁止

当会の活動については
ホームページでチェック
こちらのQRコードから



野鳥探偵は行く<鳥のフィールドサイン探し歩き>

第1回

大塚 豊

鳥のフィールドサインとは 立つ鳥 跡を残す。鳥がいた場所には何らかの痕跡が残っていることが多くあります。羽根・糞・ペリット・卵の殻・食べ跡・足跡・古巣などなど、鳥の痕跡を見つければ、バードウォッチングの楽しみはさらに深まります。事件の犯人を探るが如く、野鳥探偵になってみませんか。鳥のフィールドサイン(鳥痕と略す)の探し歩きを、これから綴って見ようと思います。

ある春の日に桜の花が 春の麗らかな天候に誘われて、自宅近辺の散歩に出掛けました。すると道路脇に桜の花が丸ごと幾つも落ちていました。桜は花びらがばらばらに散るのが通常なので、これは明らかに事件です。そう思ってその桜の木を見上げると、犯人のスズメがいました。メジロは細い嘴で花の蜜を吸うことができますが、嘴の太いスズメはそのままでは花の蜜を吸えません。スズメは花の子房と蜜腺を食いちぎって、蜜を盗み取っていたのです。ホンセイインコも同様の盗蜜行動をしますが、その凄まじさはスズメの比ではありません。



羽根を落としたのは誰 公園の雑木林にきました。地面に数枚の羽根が落ちていて、先端部が灰色なのでキジバトの尾羽です。鳥の羽根は普通少しずつ生え替わるものです。同時に多くの羽根が抜けると、新しい羽根が生え揃うまで飛べなくなるからです。尾羽数枚が同時に落ちているのは、何らかの事件かと思われます。この尾羽を良く見ると、羽軸が潰れたり裂けたりしています。どうやらオオタカなど猛禽類が、捕らえたキジバトの羽根を嘴で引き抜いたものと推測されます。でも、“トカゲの尻尾切り”のように、尾羽だけ失ってこのキジバトが逃げ延びた可能性も考えられます。いろいろ想像を膨らましてみましょう。



お気に入りの止まり場に白い物が コンクリート三面張りの小さな河川にきました。川岸の壁には管理用の梯子状足場があり、その辺りに真っ白な糞が落ちていました。奥行き数センチ程の止まり場なので、サギ類など大きな鳥は止まれないことと、かなり水っぽい糞ということで、すぐにカワセミの仕業と推測されました。しばらく待つと、やはり獲物を啜えたカワセミが飛来しました。鳥の糞については、落とし主の種名までわからないことが多いのですが、現行犯で目撃すれば確実です。



右の写真は別の場所ですが、まさにカワセミがジェット糞射?した瞬間です。

足跡は現場を物語る お寺の境内の小さな池にきました。雨が少なかったためか、池の水が干上がった泥地に色々な足跡が残されていました。長い4本の指が矢印のように見える足跡はアオサギのようです。右側の水掻きがある足跡はカルガモのものです。サギ類やカモ類はそれぞれのグループごとに足跡が良く似ています。この時期にこの場所に生息していた種であることから、アオサギとカルガモの足跡と推定されました。水鳥たちが干上がりかけた池で小魚や小動物を捕食している状況が目に浮かぶようです。また、二本の点線状になった足跡は亀(ミシシippアカミミガメ)のもので、重い甲羅を引きずって四肢で歩いた痕跡です。足跡だけでは鳥の種の判定にまで至らないことも多く、やはり泥地を歩いている鳥を現行犯として目撃するのが一番のお勧めです。

